

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：交差点事故	
日付：11 月 1 日（土）曜日、セッション時間： 9：00～10：30	
司会者名（所属）：加藤 哲男（名古屋産業大学）	
討 議 内 容	セッション全体：このセッションでは交差点における自動車事故に関わる三編の論文が発表されたが、そのうちの一篇は第二当事者の自転車および歩行者に着目している点が特徴的である。（98）と（99）では歩行者信号が取り上げられているが、その議論の過程において歩行者信号を自動車交通の安全性向上に活用しようとする視点に共通性が見られた。このことは、交差点を通過する様々な移動者にとっての安全性が総合的に点検される必要性を示唆しており、信号現示のあり方がさらに探求されることの有用性をも展望されるといえる。（99）と（100）では事故データの解析とシミュレーションによる解析という方法の差異はあるものの、道路空間における具体的な交通行動を取り上げている点で共通性があり、具体的な交通行動の分析が交通安全研究において引き続き重要な手法であることが再認識された。フロアーとの議論においても、疑問点に対する指摘に留まらず、研究の有用性や発展性に対する賛同的な意見も数多く出され、このセッションにおける研究テーマが継続的に発展されることを期待するものである。
	（98） 鈴木理（株式会社長大）：信号切替情報の獲得によるジレンマ・ゾーンの回避に関する研究 信号切替情報の取得がどれだけ安全性向上に寄与するか、また一方で危険性を増大させることにならないか、という問題提起に対して、歩行者信号の切替情報を組み込んだ新しい概念としてジレンマ・ゾーン、オプション・ゾーンの活用が期待されるという賛同意見があった一方、実際の安全回避への効果に対する疑問も指摘されたが、先頭車という限定条件下にはあるものの夜間には歩行者信号の切替による色調の変化が有用な情報になる可能性が確認された。
	（99） 田端要輔（北海道大学大学院）：市街地交差点における歩行者および自転車の横断方向を考慮した右折事故分析 歩行者・自転車の横断方向を考慮したうえでのソフト・ハード両面からの対策が提起されたのに対し、第二当事者（歩行者・自転車）の危険意識醸成や安全教育、歩行者・自転車と自動車とが錯綜しない信号現示などによる事故対策の有効性が指摘されるとともに、第一当事者（自動車）の属性による差異についても議論がなされた。その一方で、自転車の進行方向規制や歩行者信号現示の見直しなども提起された。
	（100） 松尾幸二郎（豊橋技術科学大学）：幹線道路における右折レーンの無い交差点進入路の追突事故要因の分析 信号交差点における追突発生要因として、信号切り替わり時以外の要因として車線選択や車線変更行動を取り上げて交通安全対策を論じたのに対し、右折待機車両の有無の影響や、集計ロジット車線選択モデルにおけるドライバーの時間差認知に対して討議がなされた。また、右折直進混用車線の運用事例について情報提供があり、その危険性を訴えるべきではないかとの指摘があり、安全性と利便性の関係をどのように評価するかについて議論された。